



広報

那須

11

月号

No.759

2022年(令和4年)



いちご一会とちぎ国体 自転車ロードレース (10月9日撮影)

音訳ボランティアの協力を得て、目の不自由な人のために音訳版広報那須を作成しています。
詳しくは広報広聴係まで

目 次

特集(いちご一会とちぎ国体)	2
タウントピックス	6
タウントピックス(那須高校タイム)	15
子育て・ほけんだより	16
生涯学習だより	19
図書館だより	21
タウンinformation	22
みんなの広場	25
カメラスケッチ	26
那須町と近現代の人々	32

いちご一會とちぎ国体

夢を感動へ。感動を未来へ。



10月9日、いちご一會とちぎ国体自転車競技（ロードレース）が町スポーツセンターをスタート・ゴール地点とし、17.6kmの周回コースで行われました。町内の小中学生や町民、全国から訪れた観客の応援を背に、選手たちは3年ぶりに開催された国体（第77回国民体育大会）で、郷土の誇りを胸に白熱したレースを展開しました。

また、大会運営にあたっては、多くのボランティアが活躍し、笑顔とおもてなしの心で全国から訪れた方々をお迎えしました。



▲地元開催で活躍した栃木県選手団の皆さん



▲力走する栃木県代表の新沼杏菜選手は女子の部11位と健闘〔中央〕



▲池澤議長が緊張を解き放つ号砲を鳴らしました



▲全国から訪れた選手を激励する平山町長

平山町長から選手へ激励の言葉を贈り、「女子の部」と「成年男子の部」のスタートを町長が、「少年男子の部」のスタートを池澤議長が務めました。



▲幸福の科学学園チアダンス部の皆さん

熱戦を振り返る

秋の訪れとともに、都道府県の代表選手が本町に集結し、国体のタイトルをかけた熱いレースを繰り広げました。女子の部には29名、少年男子の部には82名、成年男子の部には79名の選手が出場しました。栃木県代表の石原悠希選手（成年男子の部）は9位となり惜しくも入賞は逃しましたが、トルクレース（宇都宮市開催）との合計得点で競われる女子総合成績では栃木県は2位、男女総合成績では悲願の優勝を果たしました。

レースに先立ち、幸福の科学学園チアダンス部の皆さんのが元気と笑顔を届ける全力のパフォーマンスで会場を盛り上げました。

出発式

選手に贈るエール

スタート・ゴール地点のスポーツセンター付近や大会コース沿線では、選手への温かい拍手の応援がありました。また、役場前では学校観戦が行われ、町内の全小学生がステッキバルーンを使って、選手へエールを贈りました。

▲小学生の大応援団（役場前）



▲中学生も一生懸命に応援しました（スタート地点先）

▲地元の皆さんによる大きな拍手の応援（芦野駐在所付近）

にぎわう交流広場



▲都道府県選手団の皆さんも交流広場を楽しみました

文化センター駐車場内の交流広場では、売店の出店や無料流広場では、売店の出店や無料飲食など、レースの実況解説などが行われ、たくさんの方々でにぎわいました。

▲手に汗握るレースの様子が中継されました



▲伊豆の温かいそばは、来場者を笑顔にしました

▲選手にも好評だった那須地域の牛乳無料配布

▲那須町観光大使きゅーびーのグッズは大人気でした

町の魅力が満載の交流広場は、選手や監督、観客の笑顔が集う場となり大盛況でした。



▲選手に負けず自転車をこいで、かき氷を作りました

▲那須地域の農産物を全国にアピール

▲地元の味を求めて多くの来場者が列をつくりました

ボランティアの活躍

今大会は多くのボランティアの皆さんに支えられ運営しました。一般ボランティア133名のほか、那須中6名、那須中央中38名、那須高校42名、合計219名のボランティアがそれぞれの持ち場で活動しました。



▲一般来場者受付の様子



▶学校ビューアーイングエリアでは、800個の椅子を並べて、小学生をお迎えしました



▲感染症対策も忘れず、細やかな心遣いをみせる中学生ボランティア



▶レース前の道路清掃で選手は安全に走行できました



▶手際よく選手や大会関係者へお弁当を配布しました



▶那須ブランド「御用邸の月」の無料配布



▲表彰式では、緊張した面持ちでプラカーダーなどの式典補助を務めました



▲無料ドリンクコーナーは、中学生が自主的に運営しました



▶交通誘導や巡回案内でもボランティアの力が発揮されました



表彰式では、那須中と那須中央中の吹奏楽部が生演奏で選手の栄光を称え、表彰式を盛り上げました。那須中は、君が代も演奏し厳かな式典に花を添え、那須中央中はこの日のために練習した楽曲で選手や観覧者をお迎えし、表彰式終了後には、今大会イメージソングの「いちご一會」を演奏して、選手を見送りました。

表彰式

総合開会式

10月1日、カンセキスタジアム（宇都宮市）でいちご一大会とちぎ国体総合開会式が行われました。

本町からは、幸福の科学学園チアダンス部が出演し、笑顔いっぱいの演技でオープニングを盛り上げました。

また、本町の炬火名の命名者渡邊珠希さん（那須中央中1年）は、町代表炬火走者の大役を務めあげました。



▶栃木県の選手団が颯爽と入場しました



▲宙を舞うブルーインパルス



▲幸福の科学学園チアダンス部の皆さん



▲渡邊珠希さん(右から2人目)



▲国体開催直前の9月25日、きれいなコースで選手をお迎えするため、自治会や企業、公民館などの各団体から約280人が参加し、大会コース沿線のゴミ拾いを行いました

クリーンアップ運動

町内小中学生が作製した手作り応援のぼり旗が会場内に飾られ、レース前の張りつめた空気の中、選手たちは子どもたちの想いに笑顔を見せ、レースに臨んでいました。



▲選手ウォーミングアップ場の様子

選手へ届く想い



▲（左から）栃酪那須町酪農組合様、酪とち那須地域酪農組合様、那須野農業協同組合様、お菓子の城那須ハートランド様、那須町建設業安全協議会様から大会を盛り上げるための品々をご協賛いただきました（9/27役場特別会議室）

協賛社・団体感謝状贈呈式



10月7日、彬子女王殿下が那須歴史探訪館を御視察されました。皇室からの恩賜品や明治天皇の行幸の際の資料をご覧になった彬子女王殿下は、学芸員の説明に熱心に耳を傾けられ、絵画のエピソードには優しく微笑まれました。

大会運営にご協力をいただきました競技役員の皆様、ボランティアの皆様、すべての関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。皆様のご理解とご協力により、素晴らしい大会にすることができ、皆様と共にこの大会を開催でき、感動を分かち合えたことをうれしく思います。この感動を後世に語り継ぎ、国体を通してさらに深まつた地域の絆を未来へつないでまいります。

この大会が本町の歴史の新たな1ページとして刻まれ、国体に関わったすべての方々の記憶に残る大会となりました。誠にありがとうございました。



感動を未来へ

いちご一大会とちぎ
国体那須町実行委員会事務局（教育委員会生涯学習課）
国体推進室
那須町長
いちご一大会とちぎ
国体那須町実行委員会会长長

平山 幸宏